

課題番号: LZ006
助成額: 74百万円

ライフ・イノベーション

人文社会系

平成 23年 2月 10日
～平成 26年 3月 31日

グローバル化による生殖技術の市場化と生殖ツーリズム:倫理的・法的・社会的問題

日比野 由利 金沢大学医薬保健研究域医学系 助教
Yuri Hibino



専門分野
社会学

キーワード
生命倫理 / ジェンダー / 医療社会学 /
生殖ツーリズム / 倫理的・法的・社会的問題

WEBページ
<http://saisentan.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

研究背景

近年、卵子提供や代理出産など、国内で提供されていない技術を利用するためアジアの国々へ渡航する日本人が増えている。生殖ツーリズムは、アジア女性への搾取の他、様々な倫理的・法的・社会的問題を孕む。我が国における今後の方向性を探るためアジア諸国における動向を明らかにすることが不可欠である。

研究目的

規格格差や経済格差に基づくアジアへの生殖ツーリズムにおける「利用する側」と「利用される側」の実態解明を行い、医学的、及び倫理的・法的・社会的問題(ethical, legal and social issues)を抽出する。我が国における生殖補助医療の適正な実施に向けた提言を行う。

実績

代表論文:「アジアの生殖補助医療と法・倫理」法律文化社 (2014年3月)
受賞: 中村賞 金沢大学(2014年1月25日)
新聞: 毎日新聞「不妊治療: 卵子精子提供 親が子に告知『必要ない』37%」(2013年9月7日) ほか
TV: NHK放送「卵子提供『子に伝える』18%」(2013年10月6日)
NHK放送「海外で卵子提供を受ける女性急増」(2013年1月10日) ほか

研究成果

国内におけるニーズ把握とあるべき制度設計

晩婚化・晩産化が進む我が国では卵子提供に対するニーズが増大しており、国内での卵子提供分娩が急増していることがわかった。ツーリズムへの傾斜を防ぐためには、国内で卵子ドナーを調達するとともに、子の出自を知る権利を保障できる制度設計の構築が必要である。

世界における第三者生殖技術の市場化・商品化の実情

インドやタイなどでは、現地の女性たちが金銭目的で卵子ドナーや代理母になっている。現地では様々なトラブルが多発しており、なかでも子どもの国籍取得をめぐるトラブルは、子どもに対し不利益を招きかねないことから、法整備が必要である。

不妊問題における入口と出口の制御
～生殖補助医療の適正な実施・利用に向けて～



不妊問題における入り口と出口の制御～生殖補助医療の適正な実施・利用に向けて～

生殖ツーリズム構造からの脱却

昨今の生殖ツーリズムの一つの背景となっている加齢不妊や晩婚化・晩産化をもたらす社会構造の改革が必要である。また、子どもを望む人々に対し不妊治療以外の選択肢を提供するために、養子制度の拡充が必要である。

2030年の 応用展開

配偶子提供などの生殖技術を用いた家族形成が国内でもますます浸透していくことが予想される。国内における子どもの福祉を中心とした法や制度の構築に加え、ツーリズム問題に

対処するためには、国際的な秩序形成が必要になってくると思われる。本研究はそのための基盤形成として貢献しうるのである。